



Translation:

Ms Nozomi Abe (translating team leader)

Mr James Hadley (translator)

Mr Richard Stevenson (translator)

Dr Yoko Matsumoto-Sturt (project supervisor)

ホーム

スコットランド - マルチリンガル社会

スコットランドは多言語国で、最近の調査によると、少なくとも 106 ケ国語が話されています。人口 500 万人を超えるこの国において、言語がこんなにたくさんあることは、多様な文化、ビジネスチャンス、充実した教育それぞれに多くのメリットをもたらします。しかし我々は、多様な言語・文化を受け入れる準備ができていますか。

世界の多くの地域では、子供が生まれてからすぐに二つ以上の言語に触れることは普通ですが、ヨーロッパのほとんどではバイリンガリズムは比較的新しい現象です。そのため、二つ以上の言語環境で育っている子供は特別視されることが多く、子供の成長に悪影響を与えられがちです。つまり、バイリンガリズムはいまだに否定的にとらえられ、誤

解されているのです。これは主に情報不足が原因です。

[バイリンガリズム・ マターズの姿勢]

- バイリンガリズムのメリットについての情報提供に努めます
- ご家族の皆様、教育者と政策決定者の方々に、バイリンガリズムをご理解・ ご支持していただけるよう尽くします

バイリンガリズムのメリット

バイリンガリズムが子供の成長と将来に多くの利点があることは、研究により明らかになっています。複数言語に触れて育った子供は、様々な文化・ 人々・ 観点を、より良く認識できるようになります。さらに、モノリンガルの子供と比べると、二つ以上のことを同時に
する能力、集中力、読解力、語学能力が高いという一般的な傾向があります。

バイリンガリズムの利点は、二言語能力だけではありません。

メディアやウェブで見る「バイリンガリズム・ マタ - ズ」の活動に関する記事

- Corriere della Sera "Funziona meglio il cervello poliglotta" (2009 年 5 月 3 日に出版)
- [RSA Newsletter](#)
- [エディンバラ大学のウェブサイト](#)

- [TES](#)
- The Metro と The Sun
- [The Scotsman](#)
- [Deadline](#)
- [The Herald の Scottish Cilt のウェブサイト](#) (オリジナルは 2009 年 1 月 30 日に出版)
- [Children in Scotland magazine](#) (オリジナルは 2009 年 1 月に出版。詳細情報と購読についてはこちら <http://www.childreninscotland.org.uk>)
- [TES connect](#)
- [RSA Scotland](#) (バイリンガリズム・ マターズの立ち上げは RSA によってサポートされました)
- [The Herald](#) (バイリンガリズム・ マターズの立ち上げについて)
- [エディンバラ大学 eBulletin](#)
- [The Journal](#) (エディンバラベースの学生新聞)
- [エディンバラ大学 news releases](#)
- [エディンバラ大学 Knowledge Transfer Newsletter](#)
- [エディンバラ大学 College of Humanities and Social Sciences](#)

活動内容



エディンバラのセント・デービッド小学校でトークを聴いている保護者

我々の役目

我々はエディンバラ大学で言語発達及び、子供と大人のバイリンガリズムの研究をしています。

我々にできること

子供たちがバイリンガリズムを通じてメリットを得られるよう、研究者たちと社会の各面（バイリンガル家庭や、教育者と政策決定者）の間の懸け橋になりたいと思っています。

サービスについて

- 子供をバイリンガルに育てたいけれど、どのような方法があるかが分からない場合
- バイリンガリズムが子供の学業に与える悪影響について心配している場合
- バイリンガルの子供の心と脳がどのように働いているかを知りたい場合、など

本サイトの情報をご参考ください。または info@bilingualism-matters.org.uk へご連絡ください。

我々は、典型的なバイリンガル言語発達についてアドバイスを提供しています。それ以外のこと、例えば医学的、心理的な一切の状況に対応することはできませんので、そのような場合は専門家にご相談ください。

保護者や教育者向けのトーク

学校や幼稚園向けに、分かりやすく参考になるバイリンガリズムに関するトークを行っています。

講習会

国際機関向けの講習会と相談会を開きます。また政策決定者のアドバイザーとなり、スコットランド社会におけるバイリンガリズムとマルチリンガリズムを促進する報告書と協議

進行に貢献することができます。

長期的な目標

- バイリンガル家庭、教育者や政策決定者のバイリンガリズムについての事実やメリットに対する認識を高めること
- スコットランドでバイリンガリズムを促進する通信方法と情報源の確立に貢献すること
- 幼児期からバイリンガリズムを促進するため、スコットランドの言語対策が特定の方針を含むよう、その形成に寄与すること
- バイリンガリズムに関する研究とその普及が特に必要な箇所を明らかにすること

以上のような、バイリンガル家庭や教育者にバイリンガリズムの正しい情報を広めることが我々の根本的な目標です。

BILINGUALISM
MATTERS

Q&A

次の情報は 2004 年 5 月に Antonella Sorace (アントネラ・ ソラッチェ) Bob Ladd (ボブ・ ラッド) 著 「Raising Bilingual Children (バイリンガル育児)」 という冊子に掲載されたものです (LSA 「アメリカ言語学会」 出版)。学会の許可で完全にここに再掲載します。詳細情報は、「アメリカ言語学会」に E-メール (lsa@lsadc.org) を送る、あるいはウェブサイト (<http://www.lsadc.org>) をご覧ください。

Sorace, A. & Ladd, D.R., 2004, Raising Bilingual Children. Series: Frequently Asked Questions, Linguistic Society of America.

- [子供をバイリンガルとして育てる理由は？](#)
- [子供は周りで二つの言語を聞いて育つと混乱しませんか？](#)
- [バイリンガルの子供は言語を混ぜて使うようになってしまいませんか？](#)
- [幼い子供に二つの言語をどうやって教えればいいですか？](#)
- [生まれてからすぐに子供が二つの言語に触れると、話せるようになるって、そんなに簡単なんですか？](#)

- 「ワン・ペアレント - ワン・ランゲージ」という方法の問題点とは？

- 兄弟がいる場合は？

- うちの子はホームランゲージ（家庭の日常的な言語）で流暢に話していたのに、
学校へ通い始めたら、頻繁に英語を交ぜて話すようになってしまいました。ど

うすればいいでしょうか？

- 参考書籍

子供をバイリンガルとして育てる理由は？

理由は様々ですが、よくあるのは次の二つです：

- 両親が異なった言語を話す場合（例えば、アメリカ人のお母さんとトルコ人のお父さん）

- 両親は同じ言語を話すか、何か他の言語を話すコミュニティに住んでいる場合（例えば、イギリスに住んでいる韓国人のカップル）

一つ目の場合では、おそらくお母さんもお父さんも自分の言語で子供と話したいと思います。これが「バイリンガル家庭」の状態です。二つ目の場合では、子供は一步家を出ると別の言語で人々と関わる必要がありますが、両親は家では自分たちの言語で話したいと思

います。これが「バイリンガル環境」という状態です。私たちの場合は英語の環境の中のイタリア語と英語の「バイリンガル家庭」です。本サイトの情報の中にはバイリンガルの子供を育てる私たちの経験に直接基づいているものもあります。

[上に戻る](#) ↑

子供は二つの言語を聞いて育つと混乱しませんか？

端的にお答えしますと、そういった混乱はありません。

子供は人々の話し方の違いに非常に敏感です。一つの言語しか聞いていない時でさえ、男性と女性の話し方の違い、丁寧あるいは無礼な話し方の違いを非常に速く学びます。子供にとって言語の違いは、このような人の特徴によって生じる相違に過ぎません。

50年前、北米全土にわたって、移民は「家庭でも英語ばかり話した方が子供の教育にメリットがある」と教えられていました。幼児の時に二つの言語を聞かせることは不利になると思った研究者もいましたが、新しい研究によるとこれは事実ではないようです。バイリンガルな人には(一つ以上の言語を話せるだけでなく)メリットが様々あります。例えば柔軟な思考ができることなどです。当初の研究で見つけられた不利な点は、一般的に移民の困難な生活に関連した経済的なものでした。

バイリンガルの言語発達はモノリンガルの子供より少し遅いことがあります。私たちの場合、年上の子は四歳半になっても、英語で「Where are you?」の代わりに「Where you are?」と言い間違えていました。これはモノリンガルの英語を話す子供にとっても正常な発達の段階ですが、通常、三歳か四歳の時までに「Where are you?」と言わなければならないと気づきます。私たちの年上の子は少し時間がかかったというだけです。

[上に戻る](#) ↑

バイリンガルの子供は言語を混ぜて使うようになってしまいませんか？

バイリンガルの大人と同様に子供も、ある言語を話している時、別の言語の単語を頻繁に混ぜて話すことがあります(この現象は code-switching 「コード切り替え」と呼ばれています)。これは、子供たちがどちらの言語を話しているかわからなくなってしまったというわけではありません。私たちのイタリア語と英語のバイリンガル家庭では、食べ物に関する単語は大抵イタリア語ですから英語で話している時でもイタリア語の単語をよく使います(英単語があっても)。例えば、チキンの代わりに「pollo」、またソースの代わりに「sugo」と言います。一方、モノリンガルの人と話す時、バイリンガルの子供は適切な言語だけを使うように気を付けます。

[上に戻る](#) ↑

どうやって幼い子供に二つの言語を教えればいいですか？

子供に歩き方や微笑み方を教えないように、話し方を「教えよう」としないことが一番大切なことです。

言語発達で大切なのは、聞く・話す機会を与えること、および必要性を高めることです。

- 子供が生まれてから様々な状況で、たくさんの人と一つの言語に触れる機会がある場合
- 自分を取り巻く社会と交流するのにその言語が必要だと思う場合

この二つの条件が揃うと、話せるようになります。

- 生まれてから様々な状況で、たくさんの人と二つの言語に触れる機会がある場合
- 自分を取り巻く社会と交流するのにその両方の言語が必要だと思う場合

この二つの条件が揃うと、子供は両方を話せるようになります。

[上に戻る](#) ↑

生まれてすぐ子供が二つの言語に触れると、話せるようになるって、そんなに簡単なものでしょうか？

多くの専門家は、バイリンガル家庭に「ワン・ペアレント - ワン・ランゲージ」という方法を勧めています。この方法は、ママ（または「Mommy」や「Mutti」）は、子供と話す時、自分の言語しか使わず、同様にパパ（または「Daddy」や「Vati」）も、自分の言語しか使わないというものです。「ワン・ペアレント - ワン・ランゲージ」という方法は、円滑に進むバイリンガル家庭のよい基盤となりますが、唯一の方法ではありませんし、これも成功しない場合があります。

[上に戻る](#)↑

「ワン・ペアレント - ワン・ランゲージ」の問題点とは？

よくある問題の一つは、バランスです。子供は、様々な場面で両方の言語を頻繁に聞く必要があります。片方の親から「主要でない」言語を聞くチャンスが一切ないとしたら、その言語能力が自然に発達するための時間が足りない恐れがあります。特に、両親共に「主要な」言語が理解できる場合は、子供は「主要でない」言語は必要ないと思ってしまいます。

このような場合は、「主要でない」言語を聞いたり話したりする機会や、その必要性に自覚を持たせる方法を新たに見つけ出すことがきわめて重要です。モノリンガルの祖父母が特にこの場合の役に立ちます！

コツとしては以下のようなことが挙げられます。

- 祖母・いとこ・ベビーシッターなど「主要でない」言語を話す人に子供の世話をお願いすること
- 「主要でない」言語を聞くことができる保育所や幼稚園を見つけること
- ビデオやオーディオブックなどを手に入れること

単にテレビを見るだけでなく、他人と交流する上記のような機会を得る経験が特に、大きな影響を与えることができます。子供が小さい頃、主に英語が話されている環境でイタリア語の必要性を強めるために私たちも同じようなことをしました。

もう一つの問題は、教育環境を自然に保つことです。何か変なこと、恥ずかしいことを無理やりさせられていると感じたら、子供はおそらく嫌がってしまうでしょう。「ある日はA言語を話し、別の日はB言語を話す」などのような固い規則は、強要しにくく、否定的な態度をうながしてしまう場合があります。

さらにもう一つは、仲間はずれの問題です。片方の親がもう片方の言語が話せないという状態の時（前に挙げた例では、トルコ語が話せないアメリカ人のお母さんの場合）、子供はお父さんにトルコ語で何かを言う度にお母さんを会話から除いてしまうことを分かっています。このように親が二人ともいる時、子供は片方の言語を話すのをためらってしまうこともあります。私たちの経験では、両親共に少なくとも両言語が理解できさえすれば、バイリンガル家庭の成功率が高まります。そうすれば、家族の会話から仲間はずれにされる人がいないからです。

[上に戻る](#) ↑

兄弟がいる場合は？

弟や妹が生まれたら、バイリンガル家庭のバランスが崩れる可能性があります。年下の子が年上の子ほどバイリンガル能力がないということも珍しくありません。たいてい、年上の子は年下の子に「主要な」言語で話します。その結果、年下の子がその言語に触れる機会が増加していくと同時に、「主要でない」言語を話す必要性があるという自覚が減少してしまいます。このような問題が生じる前に考えてみてください。自分の家庭に合う対策を立てましょう。年下の子も「主要でない」言語が話せるようになるよう、年上の子に協力してもらおうのもいいかもしれません。

[上に戻る](#) ↑

うちの子はホームランゲージ（家庭の日常的な言語）で流暢に話していたのに、学校へ通い始めたら、頻繁に英語を交ぜて話すようになってしまいました。どうすればいいでしょうか？

心配しないでください。このようなことは、皆が両言語を話す環境では普通です。子供が言葉を混ぜて話しても、一つの言語を忘れてしまう、或いは二つの言語の違いが分からなくなるというわけではありません。英語で話すことを叱れば、ホームランゲージに対する否定的な態度を助長してしまい、実際には状態を悪化させる可能性があります。その代わりに、ホームランゲージの必要性がある自然な環境を作りましょう。またモノリンガルの祖父母に頼んでみましょう！

単に言語に触れることが、子供の言語発達の大切な要素となることを、心に留めておけば、このような言語混合が理解できます。幼い頃は、子供が英語よりもホームランゲージ（例えば、韓国語）に触れる機会が多かったかもしれません。学校に通い始めたから、毎日何時間も英語のみに触れ、色々な新しい単語と言葉の使い方を習うようになります。ただし英語のみです。子供たちはおそらく「ノート」「社会科」「校長先生」に対応する韓国語の

単語を知りません。

韓国語で話している時に英語の単語を交ぜる場合は、ホームランゲージを忘れてしまったと心配するより、それに対応する韓国語の単語を教えることにしましょう。英語が主流の言語となっても、子供は韓国語が十分に話せる場合もあることを覚えておきましょう。

[上に戻る](#) ↑

参考書籍（英語のみ）

Baker, Colin. 1995. A Parents' and Teachers' Guide to Bilingualism. Multilingual Matters.

（コリン・ベーカー、『バイリンガリズム：親と先生のためのガイド』マルチリンガルマターズ出版社、1995年）

Grosjean, François. 1982. Life with Two Languages. Harvard University Press.

（フランソワズ・グロージョン『二言語との生活』ハーバード大学出版社、1982年）

Harding-Esch, Edith, and Philip Riley. 2003. The Bilingual Family: A Handbook for Parents.

2nd edn. Cambridge University Press.

(イーディス・ハーディングーエッシュ、フィリップ・ライリー『ザ・バイリンガルファミリー：親のためのハンドブック』第2版、ケンブリッジ大学出版社、2003年)

[上に戻る](#)↑

